

## 答 辞

冬の寒さを和らぎ、春の日差しに満ち溢れる季節となりました。このような中、私たちは今日、卒業の日を迎えることができました。本日は、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るう中、私たちのために心温まる卒業証書授与式を挙行して下さい、誠にありがとうございます。また、先程は校長先生や後輩たちからの励ましやお別れの言葉をいただき、改めて卒業するのだなと実感しています。

三年前の春、私たちは、この矢上高校の門をくぐり、晴れて入学しました。私たちは期待と不安を胸に、新たな仲間とともに高校生活をスタートさせました。この仲間たちと過ごした三年間が懐かしく思い出されます。

特に今年度は新型コロナウイルスの影響により、多くの行事や大会が縮小、又は中止となりました。その中でも、クラス一丸となり戦った球技大会。高校最後の総体は中止となりましたが、代替大会での活躍は後輩へのよき姿となりました。歌やダンス、神楽など普段見ることのできないいきいきとした友達の姿が見られた矢高祭。手指消毒やマスク着用、人数制限など異例づくめの体育祭。これも新しい生活様式ならではの良き思い出です。このような状況下でも、私たちの青春の一ページのために、ご尽力いただきました諸先生やPTAの皆様へ心から感謝申し上げます。

また、部活動においては、野球部の中国大会二年連続出場や、惜しくも選出とはなりませんでしたが、二十一世紀枠への推薦校となったことは皆さんの記憶に新しいと思います。陸上部では多数の選手が入賞を果たし、中国大会へ何度も出場しました。更に産業技術科の取り組みでは町内飲食店への野菜の出荷や、矢高イルミの実施により、矢上高校の名を町内に広めました。

私は三年間茶華道部に所属していましたが、生徒会にも二年間所属していたため、部活動に遅れて参加することも珍しくありませんでした。そのような中で、遅れをとる私にアドバイスをしてくれた部員やこまめに声を掛けて下さった顧問の先生方。また、矢高祭でのお茶席で声を掛けて下さった地域の皆様の励まし

のお陰で、最後まで部活動をやり遂げることができました。これも一生忘れることのない大切な思い出です。

また、平日だけでなく模試のある日もお弁当をつくり、毎日送り迎えしてくれた母のお陰で充実した高校生活を送ることができました。母には感謝の気持ちでいっぱいです。

高校生活最後の一年間はあっという間に過ぎていきました。その中でも、私たちが最も苦勞させたのは進路についてだと思います。一か月の休校期間による学習の遅れや今年から名称と出題形式が変わった大学入学共通テストなど、様々な困難が壁となりました。ですが、私たちに対する先生方の熱意と愛情のあるご指導と、家庭や仲間の支えがあったお陰で、新たな目標を発見し、その目標へと全力で向かうことができました。

矢上高校は私たちの思い出のたくさん詰まったリュックです。私たちは今それを背負いそれぞれの夢へと羽を広げ飛び立ちます。これからは離ればなれとなりますが、決して一人ではありません。私たちは誰かの支えがあるからこそ生きることができています。人との繋がりを大切にして、未来へ進みましょう。

この三年間、私たちはたくさん笑い、涙を流しました。感謝してもし尽くせないほどの先生方や地域の方々、家族の支えがあり、少しずつではありますが成長することができました。今日、無事に卒業できるのも皆様のお陰です。本当にありがとうございました。まだまだ未熟な私たちですので、これからも見守っていただきたいと思います。

最後になりましたが、私たちの学校生活を支えてくださったすべての方々に、お礼を申し上げるとともに、矢上高校の更なる発展を祈念し、答辞と致します。

令和三年三月二日  
卒業生代表 石塚杏菜